

地域のみなさまとともに
豊かな明日を目指して

笑顔を未来へ

日専連ライフサービスは、カード事業や基金設立などを通じて、地元経済の活性化と共に社会貢献活動に力を入れ、地域の皆様の豊かな暮らしを実現する活動を行っています。

キャッシュレス化を通じて地域に笑顔を広げる

みやぎ生活協同組合との連携事業 (株)日専連ライフサービス

日専連ライフサービスとみやぎ生活協同組合の連携活動は40年になるという長さ。地域のためにという共通理念のもと、両者がどのように歩んできたのか、りらくアンバサダーの渡辺祥子さんが伺いました。

世代を超えて続くトリプルカード

渡辺 日専連さんはキャッシュレス化の仕組みを作ることを通じて地域貢献をしています。その中でみやぎ生協さんとの連携は特筆すべきものですね。

滝島 単にカードを作るだけでなく、地域に根付いて地域に貢献するというビジョンのもとで活動しています。が、みやぎ生協さんは組合員に我々はカード会員の皆様笑顔を届けるという共通の考えのもとに進んできました。

渡辺 具体的な取り組みを紹介してください。



日専連ライフサービス・副社長の滝島正晴さん。日専連のカード会員、みやぎ生協の組合員が使いやすい決済システムの構築に尽力してきた

生協・日専連
共用カードの業
務提携を発表、
翌年4月から
共用カード(現
在はCOOPT
リプルカード)
の発行を開始
しました。キャッシュレスで便利にお
買ひ物ができるように、世代を
超えて37年も使われ、ファンが増えて
いますね。



地域貢献の取り組み

渡辺 その中で基金、商品券で地域貢献する仕組みを作りました。

滝島 2016年に創設したのがコープトリプルカードスマイル基金です。これは生協店舗でのトリプルカード利用1件につき1円を基金に拠出するもので、みやぎ生協さんと一緒に今年からは宮城県内の若者(学校・学生等)の活動を対象とした地域貢献活動に300万円ほど助成します。また環境保全活動の支援については、元々あった日専連商品券とみやぎ生協のMELON商品券を1998年



みやぎ生活協同組合・代表理事専務理事の大越健治さん。地域住民の助け合いコミュニティづくりにより心豊かな生活創造に邁進している

日専連との連携で作る生活の豊かさ、人とのつながり

渡辺 みやぎ生協はなぜ日専連との連携を選択されたのですか。

大越 当時キャッシュレス化を検討した時に、どのカード会社と組むかが問題ですから、数社に見積もりを依頼しました。すると、実は全国展開の大手企業の方が条件はよかったです。でも当時のトップは手数料だけで決めるのではなく、地域の関わりを重視すべきだと考え、地元企業の日専連さんに決めました。それが原点で、現在まで地域のために様々な事業連携を行っています。

渡辺 みやぎ生協の組合員の地域を大切に意識とも合致するのはないでしょうか。

大越 そうですね。キャッシュレス決済することに社会貢献につながっていますが、もっと実感してもらえよう、こんな活動に使われていますと広く伝える努力が必要だと思っています。私は、公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)

の役員も務めています。環境団体として全国的にも早い立ち上げで、MELON商品券の拠金は大きな財源になっており、環境保全活動に役立っています。日専連さんの力強いバックアップに感謝です。

渡辺 そうした活動支援を長年に渡って積み重ねてきましたね。

滝島 組合員さん、カード会員さんに喜んでもらうことが理念としてあります。そのうえで事業として成り立つ形で連携してきているのが長く続く秘訣だと思います。

大越 あと、地域の企業と結びついていてる点も大きな要因ですね。

渡辺 おまつりについても連携しています。

大越 はだか参りもそうですが、みやぎ生協単独ではできないですね。日専連さんと組むことによって私たちも参加できるんです。すずめ踊りには毎年、新入職員全員が参加しますが、地域との関わりを実感できて、いい経験になっているようです。残念ながら愛媛には応募できません(笑)。

渡辺 両者連携のさらなる事業展開としてプリペイドカードも登場しました。

滝島 MiICA(ミイカ)ですね。2016年10月にスタートしましたが、実は2012年にみやぎ生協独



MiICA(ミイカ)。みやぎ生協で使えるキャッシュレス決済用のプリペイドカード。300円利用ごとに通常ポイント+1ポイントがつく。各店舗のチャージ機、レジで簡単にチャージできる

自でプリペイドカードを発行して、小銭いらすずで便利だとの声がありました。しかし利便性を高めてもって使やすくてほしいかと話し合ってきました。我々はプリペイドカード発行の経験がなかったため、全社プロジェクトとして取り組み、1年ほどかけてシステムを作り上げました。チャージについては、みやぎ生協さんで全店舗にチャージ機を置いていただいたり、レジでもチャージできるようにしていただきました。我々の方は、お申込みいただいたら直ぐに使えるよう迅速にカードを発行するスキームを構築したり。これは両者の話し合いの中からまさに共同で完成したものです。

大越 みやぎ生協の決済はキャッシュレスが5割を超えました。中でもMiICAカードはチャージしやすく使える便利さで利用が大きく増えています。

渡辺 地域の企業として長年連携してきた成果でしょうね。

から共通券とし、商品券利用額の0.1%を拠金しています。この利用に伴う拠金額は累計で1800万円になりました。お客様は生活の中でカードや商品券を使ってお買ひ物をするだけで社会貢献につながっている訳です。

共同参加の青葉まつり

渡辺 仙台青葉まつりの山鉾巡行も一緒にされていますね。

滝島 当社は1995年から青葉まつりに参加しています。毎年小学生から選ばれた愛媛が山鉾に搭乗します。当然すずめ踊りもある訳ですが、踊り手、山鉾の引き手としてみやぎ生協の職員の方々が参加しています。

渡辺 まつりの主役は市民。地元の人であると共に市民の一員として参加しているんですね。

滝島 その通りです。地元を活性化しようとの共通理念のもとに、一緒にまつりを楽しみ、地域を盛り上げていく活動ですね。



りらくアンバサダー 渡辺 祥子さん

ことを話すと、日専連さんは何でも答えてくれるんですよ。

滝島 委託業務の場合、お互いの持ち場に踏み込まないんですが、みやぎ生協さんとは長い付き合いの中で、できる、できない含めてきちんと話し合いができ、一緒にシステムを作り上げる関係になっています。兄弟会社のような感覚ですね。

渡辺 今後はどのように事業を進めていくのでしょうか。

大越 キャッシュレス化を進めるのはもちろん、どちらも宮城県に根差した企業として様々な事業で連携していきます。まだまだ可能性がありますね。さらに福島、東北6県との関わりも強めていきたいと思っていますので、新しいシステム構築も必要でしょう。

滝島 ありがたくてプレッシャーを感じますが(笑)。ミイカカードについては、コープ東北サンネット事業連合で、福島、山形、岩手、青森で導入しています。地域の皆さんに喜んでいただけるものをどう作り上げるかという共通理念のもとに一緒に活動していきます。カードや商品券の利用が増えれば、社会貢献として地域への還元も大きくなりますね。1+1が3にも4にもなるようにしていきます。

両者は普段から「困りごと」について話し合いを深め、取引関係を越えた信頼を築いてきた



青葉まつりへの共同参加は毎年の楽しい行事。日専連は紫、生協は赤の法被と一緒にすずめ踊りを披露する。※2019年撮影



MELON商品券。公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)は、地球環境保全の活動を地域から起こそうと活動している環境NGO。商品券利用金額の0.1%が同団体に拠金される



COOPTリプルカード。みやぎ生協、日専連・JCB加盟店で利用するとポイントがつくキャッシュレス決済カード。みやぎ生協で利用すると300円ごとにコープポイント1ポイント、日専連・JCB加盟店で利用すると500円ごとにスマイルポイント2ポイントがつく

株式会社 日専連ライフサービス

宮城県仙台市青葉区中央1-3-1 AER 9階
TEL 022-267-9222

COOPTリプルカードの詳細はこちら



COOPTリプルカード 検索